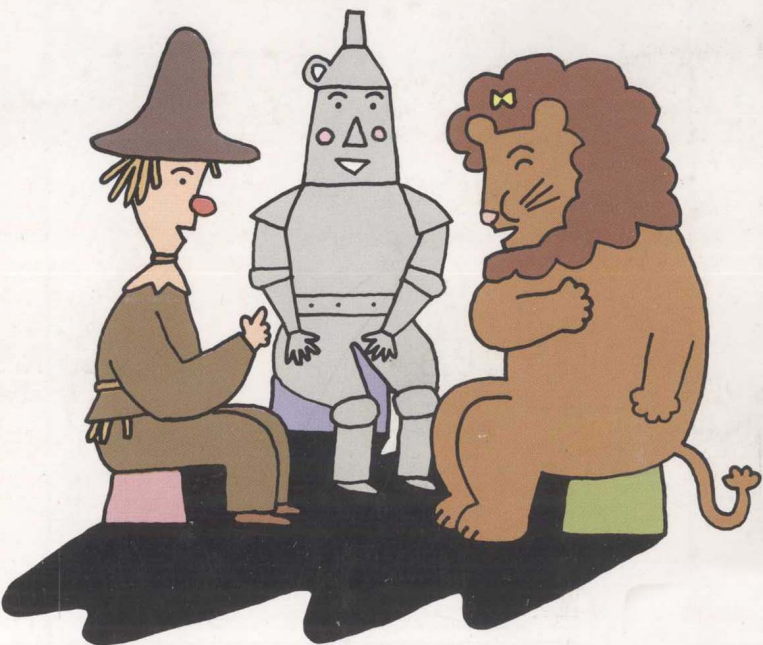


第6回・NTTふれあいトーク大賞100選



NTT



19日は「トークの日」。

第6回・NTTふれあいトーク大賞100選

一九九二年一月一九日 初刷発行

編集 日本電信電話株式会社 宣伝部

〒一〇〇東京都千代田区内幸町一―一六

電話(〇三)三五〇九―五〇九五

発行 NTT出版株式会社

〒一〇八東京都港区芝五―二―二

芝第一ビルディング

電話(〇三)五四八四―四〇六〇

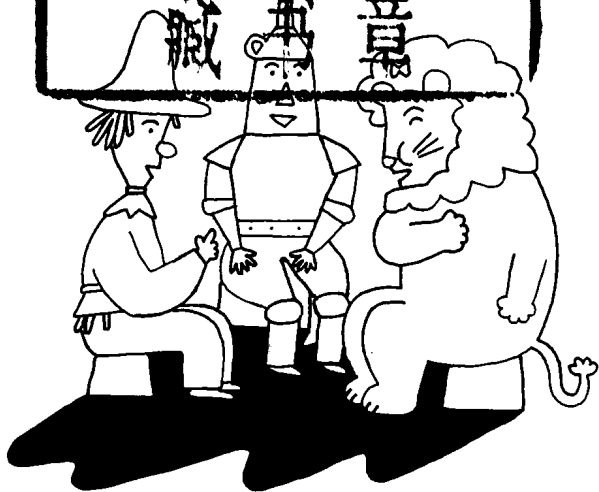
© NTT 1992. Printed in Japan.

乱丁・落丁はおとりかえいたします。定価はカバーに表示してあります。

第6回・NTTふれあいトーク大賞100選

江苏工业学院图书馆

藏书章



NTT 

カバー・イラストレーション||和田誠

本文・イラストレーション||くどうのぞみ

目次

帽子

外山滋比古

12

大賞

●一般部門

「はは 大切」

勝亦邦夫(64歳)

静岡県
富士宮市

16

●小・中学生部門

はがぬけた

對馬尚子(7歳)

青森県
南津軽郡

19

優秀賞

●一般部門

四三年ぶりでウエディングリング

市川淑子(42歳)

埼玉県
加須市

22

迷子のメッセージ

井上三夫(63歳)

東京都
練馬区

25

学校の前の電話ボックス

江村和子(36歳)

山口県
山口市

28

「慈 故能勇」(老子)

大川 進(61歳)

新潟県
新潟市

30

おばさん、ありがとう!

河合 敦(25歳)

東京都
町田市

33

忘れられない「旅立ち」

川越ひとみ(30歳)

宮城県
名取市

36

事もあるうに……

久木田 鑒(79歳)

高知県
高岡郡

39

すばらしい出会いと絆きずな

千村慶三(57歳)

大阪府
吹田市

41

小指の思い出

横須ます子(36歳)

大阪府
枚方市

45

●小・中学生部門

ぼくのカエルはどこ!!

鍛治充史(11歳)

石川県
金沢市

48

お父さんへのプレゼント

北川貴洋(13歳)

福岡県
太宰府市

51

冬の雨の日に

橋川文夏(12歳)

千葉県
松戸市

54

ねこかぶり

高島知佳(8歳)

宮城県
宮崎市

57

まほう

玉井芳英(8歳)

京都府
綴喜郡

60

ありがとう、ひいおじいちゃん

堤 佳那(6歳)

福岡県
筑紫野市

63

じゅぎょうさんかんのおかあさん

中野真理子(6歳)

兵庫県
西宮市

66

おこづかいと僕

光永博則(11歳)

大阪府
箕面市

69

ゆめの電話

山本哲子(8歳)

愛知県
岡崎市

72

トーフ賞

カモメの水兵さん

青木倫子(49歳)

愛知県
今治市

76

私の初体験バレエコンクール

秋山絵里(12歳)

山梨県
山梨市

79

わたしのいちえん貯金

小豆澤良美(15歳)

大阪府
大阪市

82

また先生に戻った二人

足立 正(56歳)

兵庫県
氷上郡

85

神様がくれた宝物

新目典子(35歳)

北海道
帯広市

88

猫たちからの“ありがとう”

猪飼千賀子(13歳)

愛知県
名古屋市

91

ヨルダンの真つ赤な夕日	石田香織(11歳)	東京都 目黒区
金メダルの車掌さん	井手千晴(12歳)	福岡県 久留米市
一言の電話	伊藤高明(48歳)	長野県 諏訪郡
おばあちゃんのお誘い	井原茂明(43歳)	千葉県 市原市
高千穂の雪	内山 榮(56歳)	富山県 北諸県郡
家庭訪問	及川貞四郎(68歳)	岩手県 一関市
モナリザの微笑みの向こうに……	大澤幸子(52歳)	福岡県 北九州市
母の前髪	大塚江里子(14歳)	北海道 札幌市
みわちゃんとしてっちゃんの恋愛	大東みゆき(22歳)	大阪府 東大阪市
わたしのぼこ	岡崎沙織(6歳)	新潟県 佐渡郡
おばあちゃんからの電話	影山節子(40歳)	愛知県 豊川市
バレンタインの思い出	加藤和子(24歳)	愛知県 稲沢市
母の姿を見て	河合千栄(13歳)	愛知県 渥美郡

庭師の千さん

川村誠之進(62歳)

岩手県
紫波郡

母の手紙

菊池ふみ子(26歳)

北海道
札幌市

どてかぼちゃカーニバル

倉永智香子(46歳)

愛媛県
今治市

電車の中の出来事

駒田利男(66歳)

大阪府
大東市

母と子

笹川奎治(64歳)

千葉県
船橋市

家族のにおい

笹谷晋吾(13歳)

京都府
綴喜郡

四六〇〇通の母への便り

佐藤公墓(62歳)

福島県
福島市

文字の定期便「南北通信」

菅 裕夫(38歳)

北海道
札幌市

放課後

鈴木紘子(11歳)

福島県
会津若松市

小さな親切大きな迷惑

鈴木文子(73歳)

愛知県
豊田市

約束の五月

関 留美子(26歳)

千葉県
市川市

モーツァルトとカタクリ

関澤順治(63歳)

千葉県
柏市

ガーナから来たガメリヤウ

高木明菜(7歳)

香川県
高松市

雀の死

高橋成子(41歳)

岐阜県
本巣郡

五〇〇円と一二〇円

高宮益子(49歳)

福岡県
福岡市

眼科でのひととき

高村和江(39歳)

群馬県
前橋市

おもちゃ
玩具の電話

辰田純朗(49歳)

大阪府
八尾市

休日のお茶

田中智恵子(53歳)

東京都
世田谷区

ものが言えた、言葉が出た

田中 博(65歳)

大阪府
大阪市

先に届いた忘れ物

田中光明(58歳)

鳥取県
米子市

すい事当番はおばあちゃん

棚橋陽子(10歳)

高知県
高知市

可愛い難問

田部 裕(55歳)

神奈川県
横浜市

父の手作り教科書

轟 千恵(50歳)

神奈川県
横浜市

北の迷犬物語

友澤眞哉(37歳)

千葉県
柏市

あの朝の虹

豊田みち(72歳)

愛知県
宝蔵郡

姉

中島明美(42歳)

愛知県
知立市

留守番電話と喧嘩しないで	中園正利(54歳)	福岡県福岡市
人の目を見る勇氣	仲渡千恵(16歳)	愛媛県今治市
Mさんのワンコ達	中西郁子(48歳)	福岡県福岡市
オ・セ・ワ・ニナリマシタ	中村保継(57歳)	東京都羽村市
平成元年一月九日のこと	長屋義雄(65歳)	愛知県愛知郡
Silent Talk	縄田美乃(31歳)	福岡県いわき市
おとうさん だいすきさ	西谷友希(7歳)	三重県多気郡
うちのバア様	根津圭二(13歳)	新潟県十日町市
海よりも深く山よりも高く	浜砂三種(46歳)	宮城県串間市
やさしさ、いっぱい	春山恵美子(50歳)	東京都青梅市
もう一度逢いたい	平井葉子(41歳)	福岡県福岡市
バースデープレゼント	平川和美(41歳)	大阪府堺市
ロクとおじさん	平川三絵(30歳)	福岡県粕屋郡

253 250 247 244 241 238 236 233 230 227 224 221 218

命の洗濯

福嶋克哉(64歳)

兵庫県
神戸市

祖母の懐

ふとこ

藤井 明(55歳)

山口県
徳山市

ぼくのともだち

古野春佳(7歳)

佐賀県
佐賀郡

私の宝物

星野みえ(26歳)

福岡県
北九州市

父からのたった一度の小包

前島由紀子(26歳)

佐賀県
佐賀市

トマトの想い出

増田和巳(42歳)

佐賀県
鹿島市

おばあちゃんへのでんわ

松本千賀(7歳)

東京都
新宿区

おばあさん、ありがとう

丸山智恵(17歳)

長野県
長野市

三姉妹

三浦康子(38歳)

静岡県
小笠郡

なまものの贈り物

三島裕巨(47歳)

岩手県
江刺市

幸せのおすそわけ

水野由美(33歳)

石川県
小松市

お父さん、頑張って

光永末加(13歳)

大阪府
箕面市

左利きのサコちゃんの思い出

湊 ふさ子(42歳)

千葉県
松戸市

彼女の手 — 宮本寛子 (30歳) 大阪府 八尾市

「ブー」と呼ばれて — 村上かず子 (26歳) 宮城県 仙台市

白球 — 村上伸明 (40歳) 兵庫県 明石市

私の祖父 — M・Monimamvu (36歳) 佐賀県 佐賀市

芍薬の花 しゃくやく — 矢羽々寿美子 (50歳) 広島県 福山市

おにいちやんがやさしくなった — 山口佳央理 (7歳) 兵庫県 三原郡

ねぼすけがえる — 山下蓉子 (10歳) 鹿児島県 大口市

雪だるま — 山田花子 (24歳) 東京都 世田谷区

不公平 — 渡辺武任 (69歳) 宮城県 柴田郡

選評

あとしがき

帽子

昭和女子大学教授 外山滋比古

テレビのマラソンレースを見ていると、実況のアナウンサーが、選手はなぜみんな帽子をかぶるのかと解説者にきいた。それに対して保温のためです、下着一枚は違います、と答えるではないか。帽子は飾りだと思っていて、そんな実際の効用があるとは知らなかった。すっかり感心する。そういえば、ソ連の人たちが冬、帽子をかぶっている。東北で新聞社を経営している知人がいつも帽子をかぶっているのも思い出した。

そのことを書いて活字にしたが、すぐ忘れてしまった。ある朝、まだ寝ているところへ電話がかかった。その新聞社の社長である。

あなたの下着一枚の文章読みました。ついては帽子をプレゼントしたいと思います。受けてください。実はもう銀座の専門店Tに話がつけてあります。行ってもらえばわかるようになっています。場所はこれこれ。気に入ったのを、どれなりとどうぞ。イタリアのボルサリーノがいいと思いますが、それにかぎりません。ご自由に、お気に召すのを求めください。

それだけ一気にしゃべると、「じゃあ」と言って電話は切れた。こちらは寝ほけまなこで、



突然、思いもかけないことを言われてびっくりしたこともある。ろくに口もきけないで、どうも、それは、それは、どうも、というようなことをくりかえすのがやつとであった。起きあがって、すこしはつきりした頭で考えているうちに、なんとも言えないやさしい心が伝わってきた。ときあたかも今日は、クリスマス。雪の国からのプレゼントのつもりであったのか、と改めて感じ入る。せっかくの好意である。明日にしたのでは間がぬける。今日でないといけない。そう思ったからその日の午後、銀座へ出かける。店では万事をのみこんで待っていた。社長は何十年来のなじみの顧客だということである。やはりボルサリーノにした。

かぶって店を出る。若いころにはかぶったことがあるけれども、かぶらなくなって三〇年にはなる。帽子に頭をひき上げられるような感じがする。たしかに温かい。フランスの乞食が、冬空に裸同然で寒くないのかときかれて、だんなだつて顔は吹きざらした、わっしなんか、体中が顔みたいなんさ、と答えたという話を思い出した。頭は顔とちがい毛があるが、年とともにうすくなって、顔に近い。しかし、吹きざらは困る。帽子はそのためにある。

そんなことを考えるともなく考えながら銀座の街を歩いていると、クリスマスイヴを祝う人たちがみんなこちらの頭を注目するような気がした。

※この本に掲載されている作品は、入選二一〇編のうちの二〇〇編です。

※作品は、賞ごとに著者名の五〇音順に掲載いたしました。

※用字用語は、一部当社規定に統一いたしました。

※敬称は省略させていただきました。

※作品は、作者の文体を尊重し、できるかぎり原文のまま掲載いたしました。

大賞

●NTTふれあいトーク大賞

